

香港のペスト(4) 北里・青山両博士一行歓迎会

薬学雑誌 1894年 明治27年 p 942-943, p 1087-1089

北里に遅れて青山からも帰国、ペスト菌発見の偉業に沸く日本は、歓迎会を企画した。歓迎会委員長として公爵近衛篤磨から主意、方法について薬学会も賛同するよう9月7日付で文書が届く。近衛以下の歓迎会専務委員には、公爵二条基弘をはじめ長谷川泰、鳩山和夫、大倉喜八郎、長与専齋、牧野伸顕、清浦奎吾、福沢捨次郎(諭吉次男)、箕作麟祥などそうそうたるメンバーである。集金は各人5円以下、50銭以上。その趣意文が薬誌にある。なお、声を出して読むと気持ちいいので、若者のために漢字を簡単にして句読点、振り仮名を付けてみた。

「(略) 抑 黒死病の我が人類を殲滅せるや尚し。古今五百年にわたり亜欧二大州に連なり其の一たび猖獗を縦にするに至りては農工廢し、商估絶へ、都市荒涼復た人煙を見ず。而して病毒深く隠れ病氣遠く遁ぐる。予防に治療に復た手の著すべきなし。茲に両博士の探検に従事せらるるに及んでや、七日を出でずして病菌の真相を発ぎ、旬日の間病屍を剖検すること二十余の多きに至り、遂に能く造化千歳の秘密を明らかにするを得、実に學術史上の一紀元を作すべき一大發明にして、凡人類たるもの其の慶福に籍らざるはなし。」

明治27年は日清戦争が7月に始まり、欧米文明吸収一辺倒から、日本が外に力を発し始めた年である。趣意文はこう

続く。

「特り医学上の光栄なるのみならず、本邦文運の光輝を宣揚して、世界万世に遍照するものと謂ふべし。我輩は両博士一行の帰朝を歓迎して健康を祝し(略)。今や本邦我が武を東洋に輝すの時に際し、先づ此の文勲の万国に赫灼たるに會ふ。豈振古の一大快事にあらずや。我が同胞諸君の奮てこの挙を賛成せられんことを企望す」

9/15 平壤攻略戦、9/17 黄海海戦など戦勝に沸く11/11、歓迎会が午後1時から帝国大学図書館で開かれた。入り口には国旗が交差され、式場の中央には爛漫たる菊花の大瓶。1:30 ころ音楽隊の奏楽あるや、近衛委員長は北里青山両博士および一行を案内し、再び小松宮殿下を御設けの席に御先導し奉る。この際一同起立して敬礼せり。(略、祝詞のあと)、両博士に銅像供与の目録、石神宮本岡田木下諸氏には各頌功状を贈与す。茲に於いて両博士は簡単なる答辞を述べ、参加者は図書館裏手の旧加州候御殿に案内され、茶菓の饗応あり。また日本麦酒株式会社の寄贈に係るエビスビールは所々に露天を張り来賓に饗せり。この間絶えず奏楽あり。而してのち一同撮影し全く散会せしは三時頃なりき。

小林 力